

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成25年2月14日

【四半期会計期間】 第76期第3四半期(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

【会社名】 瀧上工業株式会社

【英訳名】 The Takigami Steel Construction Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 瀧上 晶 義

【本店の所在の場所】 愛知県半田市神明町一丁目1番地

【電話番号】 0569-89-2101(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼常務執行役員
管理本部長 山本 敏 哉
兼生産本部管掌

【最寄りの連絡場所】 愛知県半田市神明町一丁目1番地

【電話番号】 0569-89-2101(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼常務執行役員
管理本部長 山本 敏 哉
兼生産本部管掌

【縦覧に供する場所】 瀧上工業株式会社東京支店
(東京都中央区湊一丁目9番9号)

瀧上工業株式会社大阪支店
(大阪市西区北堀江二丁目10番19号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第75期 第3四半期 連結累計期間	第76期 第3四半期 連結累計期間	第75期
会計期間		自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高	(百万円)	6,095	6,938	8,314
経常利益又は経常損失()	(百万円)	216	69	340
四半期純利益又は 四半期(当期)純損失()	(百万円)	210	47	323
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	740	201	342
純資産額	(百万円)	23,685	24,131	24,082
総資産額	(百万円)	27,277	28,483	29,495
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期(当期) 純損失金額()	(円)	8.62	1.96	13.25
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	85.9	83.8	80.8

回次		第75期 第3四半期 連結会計期間	第76期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期純損失 金額()	(円)	4.54	7.60

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載して
 おりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式の存在がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、長引くデフレを背景に、生産や輸出の減少に加え、企業収益や設備投資も弱含みな状況にあるなど、依然として景気の先行きは不透明な中で推移しました。

鋼構造物製造事業におきましては、昨年末の政権交代を起点として、公共事業に対する見方が大きく変化しつつあります。政府は景気対策と社会インフラの保全対策を積極的に推し進めるなど、将来の市場動向に幾分か期待感が持たれますが、現在までの橋梁関連の発注量は依然として低調であり、また、復興関連事業の発注の遅れなども影響したため、厳しい受注環境にありました。このような中で、当第3四半期連結累計期間の総受注高は37億8千万円(前年同期比14億9千万円減・28.3%減)となりました。

損益につきましては、工事進行基準適用工事の堅調な進捗により完成工事高の増加は見られましたが、工事損失引当金の計上などが影響したことにより、完成工事高63億4千万円(前年同期比8億4千万円増・15.4%増)、営業損失2億1千万円(前年同期は4億6千万円の営業損失)となりました。

不動産賃貸事業につきましては、賃貸不動産の需要低迷の中で、旧名古屋本社跡地の活用案件等が増加し、また、減価償却費が減少したことなどから、売上高3億6千万円(前年同期比7百万円増・2.2%増)、営業利益2億4千万円(前年同期比1千万円増・8.3%増)となりました。

上記の要因により、当第3四半期連結累計期間における連結損益は、その他を含めまして、完成工事高69億3千万円(前年同期比8億4千万円増・13.8%増)、営業損失1億2千万円(前年同期は3億8千万円の営業損失)、経常利益6千万円(前年同期は2億1千万円の経常損失)、四半期純利益4千万円(前年同期は2億1千万円の四半期純損失)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、総資産は、284億8千万円(前連結会計年度末比10億1千万円減・3.4%減)となりました。

流動資産は、完成工事未収入金や現金預金の減少により138億3千万円(前連結会計年度末比4億6千万円減・3.2%減)、固定資産は、長期預金の流動資産への振替等により、146億5千万円(前連結会計年度末比5億5千万円減・3.6%減)となりました。

負債は43億5千万円(前連結会計年度末比10億6千万円減・19.6%減)となりました。流動負債は、新規橋梁工事の受注減少による未成工事受入金の減少などから、22億円(前連結会計年度末比11億2千万円減・33.8%減)、固定負債は、金融商品の時価評価に伴う繰延税金負債の増加により21億4千万円(前連結会計年度末比6千万円増・3.2%増)となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金の増加により241億3千万円(前連結会計年度末比4千万円増・0.2%増)となりました。この結果、自己資本比率は83.8%となりました。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は9百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	71,751,000
計	71,751,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	26,976,000	26,976,000	東京証券取引所 (市場第二部) 名古屋証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は 1,000株で あります。
計	26,976,000	26,976,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年12月31日		26,976		1,361		389

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,075,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 24,620,000	24,620	
単元未満株式	普通株式 281,000		
発行済株式総数	26,976,000		
総株主の議決権		24,620	

- (注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式306株が含まれております。
 2 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成24年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 瀧上工業株式会社	愛知県半田市神明町一丁目 1番地	2,075,000		2,075,000	7.69
計		2,075,000		2,075,000	7.69

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役経営企画室長 兼営業本部海外事業管掌	取締役経営企画室長 兼海外事業担当	瀧上亮三	平成25年1月1日

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、五十鈴監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	7,713	7,040
受取手形・完成工事未収入金等	1 5,503	1 5,111
有価証券	699	700
商品及び製品	51	36
未成工事支出金	104	749
材料貯蔵品	53	50
その他	165	142
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	14,291	13,831
固定資産		
有形固定資産	4,771	4,595
無形固定資産		
ソフトウェア	25	18
その他	9	6
無形固定資産合計	35	25
投資その他の資産		
投資有価証券	9,387	9,501
長期預金	800	300
その他	208	228
投資その他の資産合計	10,396	10,030
固定資産合計	15,203	14,651
資産合計	29,495	28,483
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	1 1,494	1 1,464
未成工事受入金	1,165	180
未払法人税等	11	18
工事損失引当金	293	276
引当金	79	43
その他	292	222
流動負債合計	3,335	2,207
固定負債		
退職給付引当金	592	615
引当金	148	115
繰延税金負債	1,186	1,265
その他	148	148
固定負債合計	2,076	2,144
負債合計	5,412	4,351

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,361	1,361
資本剰余金	389	389
利益剰余金	21,377	21,275
自己株式	1,426	1,427
株主資本合計	21,701	21,599
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,122	2,270
その他の包括利益累計額合計	2,122	2,270
少数株主持分	259	261
純資産合計	24,082	24,131
負債純資産合計	29,495	28,483

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
完成工事高	6,095	6,938
完成工事原価	5,864	6,380
完成工事総利益	231	557
販売費及び一般管理費	619	679
営業損失()	388	121
営業外収益		
受取利息	26	21
受取配当金	149	137
賃貸収入	11	11
持分法による投資利益	-	8
その他	14	19
営業外収益合計	201	199
営業外費用		
為替差損	0	0
自己株式の取得に関する付随費用	3	3
賃貸費用	2	2
持分法による投資損失	10	-
投資有価証券売却損	-	1
投資有価証券評価損	12	-
営業外費用合計	30	7
経常利益又は経常損失()	216	69
特別利益		
固定資産売却益	-	0
清算配当金	24	-
特別利益合計	24	0
特別損失		
固定資産売却損	-	0
固定資産除却損	0	4
減損損失	4	-
投資有価証券評価損	9	-
特別損失合計	14	5
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	206	64
法人税、住民税及び事業税	11	14
法人税等調整額	8	2
法人税等合計	2	12
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	208	52
少数株主利益	1	4
四半期純利益又は四半期純損失()	210	47

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	208	52
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	531	148
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	531	148
四半期包括利益	740	201
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	742	196
少数株主に係る四半期包括利益	2	4

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年12月31日)	
(減価償却方法の変更)	
当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。	
なお、この変更による影響額は軽微であります。	

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形	21百万円	1百万円
支払手形	15百万円	13百万円

2 偶発債務

(1) 当社は、先般の鋼橋上部工事の入札談合に関して、平成20年6月に独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下「債務返済機構」という。)より損害賠償の請求を受け、当該請求内容を慎重に精査した結果、当社受注物件に対応する損害賠償請求のうち、一部の支払いを留保しております。これに伴い、当社は、留保分及び支払いに応じない事業会社の連帯債務の損害賠償を求めて、東京高等裁判所に提訴されました。

平成24年1月に留保分の損害賠償請求訴訟の判決が、東京高等裁判所から言い渡されましたが、債務返済機構は、これを不服として最高裁判所へ上告したため、現在も係争中であります。

また、平成24年7月に支払いに応じない事業会社の連帯債務の損害賠償請求訴訟の判決が、東京高等裁判所から言い渡されましたが、債務返済機構は、これを不服として最高裁判所へ上告したため、現在も係争中であります。

(2) 当社は、関連会社である有限責任会社Universal Steel Fabrication Vina-Japan(ベトナム)に対する契約履行保証及び前払金保証に伴い、以下の保証を行っております。保証額は、自社の負担額を記載しております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
銀行が保証状を発行したことに対する保証額(円換算前)	36百万円 (35億1千万ベトナムドン及び22百万円)	19百万円 (35億1千万ベトナムドン及び4百万円)

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産及び長期前払費用に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
減価償却費	289百万円	300百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	149	6.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の未日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	149	6.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の未日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	鋼構造物 製造事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,503	355	5,858	236	6,095		6,095
セグメント間の内部 売上高又は振替高				166	166	166	
計	5,503	355	5,858	403	6,262	166	6,095
セグメント利益 又は損失()	460	226	234	9	225	162	388

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、鋸螺釘類製造事業を含んでおり
 ます。

2 調整額の「セグメント間の内部売上高又は振替高」には、セグメント間取引の消去額 166百万円及び「セグ
 メント利益又は損失()」には、親会社本社の総務部門等管理部門に係る全社費用 162百万円等を含んでお
 ります。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	鋼構造物 製造事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	6,348	363	6,711	226	6,938		6,938
セグメント間の内部 売上高又は振替高				126	126	126	
計	6,348	363	6,711	352	7,064	126	6,938
セグメント利益 又は損失()	217	244	27	13	40	162	121

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、鋸螺釘類製造事業を含んでおり
 ます。

2 調整額の「セグメント間の内部売上高又は振替高」には、セグメント間取引の消去額 126百万円及び「セグ
 メント利益又は損失()」には、親会社本社の総務部門等管理部門に係る全社費用 161百万円等を含んでお
 ります。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

減価償却方法の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年
 4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更し
 たため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

なお、この変更による影響額は軽微であります。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()	8円62銭	1円96銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()(百万円)	210	47
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()(百万円)	210	47
普通株式の期中平均株式数(株)	24,441,324	24,438,519

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式の存在がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

当社は、先般の鋼橋上部工事の入札談合に関して、平成20年6月に独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下「債務返済機構」という。)より損害賠償の請求を受け、当該請求内容を慎重に精査した結果、当社受注物件に対応する損害賠償請求のうち、一部の支払いを留保しております。これに伴い、当社は、留保分及び支払いに応じない事業会社の連帯債務の損害賠償を求めて、東京高等裁判所に提訴されました。

平成24年1月に留保分の損害賠償請求訴訟の判決が、東京高等裁判所から言い渡されましたが、債務返済機構は、これを不服として最高裁判所へ上告したため、現在も係争中であります。

また、平成24年7月に支払いに応じない事業会社の連帯債務の損害賠償請求訴訟の判決が、東京高等裁判所から言い渡されましたが、債務返済機構は、これを不服として最高裁判所へ上告したため、現在も係争中であります。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月8日

瀧上工業株式会社
取締役会 御中

五十鈴監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 名倉真知子 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 中出進也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている瀧上工業株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、瀧上工業株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

注記事項(四半期連結貸借対照表関係)偶発債務に記載されているとおり、会社は鋼橋上部工事の入札談合に関して独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構より損害賠償請求訴訟を提起されている。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。